福島の蔵書印　－その４０－

馬城会文庫の蔵書印

当館では県内の学校関係記念誌を数多く所蔵しているが、ある時『相中相高百年史』（1998 年）を開いていると「『馬城会文庫』創設の頃」という記事が目にとまった。

福島県立相馬高等学校は、「至誠」を校訓に 1898（明治 31）年の開学以来 110 年以上の歴史と伝統を誇る相双地区屈指の名門校である。

同窓会「馬城会」の発足は 1903（明治 36）年、本校の歩みとともに歴史を重ね現在 1 万 8 千人以上の卒業生を会員とする。「馬城会」の名称は相馬氏の居城・中村城が別名「馬陵城」と呼ばれていたことに由来する。

創立 80 周年を迎えた 1978（昭和 53）年、この年度に卒業を迎える生徒と父兄は卒業記念事業として「馬城会文庫」の設置を計画した。その趣意書には「この意義ある年に学窓を巣立つ本年度卒業生が、母校に卒業記念として馬城会先輩各位の著作を蒐集し、その偉業を偲ぶべく馬城会文庫を設置したいとの強い希望を申し出ております。」と記されている。

この呼びかけは、各地域・各界で活躍されている先輩方の心を動かし、暖かい励ましの言葉と共に多くの書籍が届けられた。その一部を紹介する。

国文学者にして児童文学者・高野正巳氏（相馬中 20 回・1905 ～ 2001）『近世演劇の研究』（1941/東京堂）、『近松とその伝統芸能』（1965/講談社）、『かっぱのこうやく』（1954/同和春秋社）。

憲法学者・鈴木安蔵氏（相馬中 21 回卒・1904 ～ 1983）『新版　政治学入門』（1969/成文堂 ）、『日本憲法学史研究』（1975/勁草書房）、『明治維新政治史』（1942/中央公論社）。鈴木氏は京浜馬城会副会長・荒川利男氏に宛てた書簡で「高野正巳君からも連絡があり、かねて老生相中在学中からの経験からも母校にはたして見るべき図書館施設ありやと時折気にかかりながらも帰省の折もなく過ごしていました。」と綴っている。

東北学院大学教授・岩崎敏夫氏（相馬中 26 回卒・1909 ～ 2004）『本邦小祠の研究』（1976/名著出版）、『柳田国男の分類による日本の昔話』（1977/角川書店）等々 434 点に及ぶ。これらの資料は「馬城会」が主体となって建設した若駒会館へ収容され、次代を担う後輩たちがめざす知の集積として若駒たちを見守っている。

上掲の印影は、『相中相高百年史』より採録した。縦 3.9mm ×横 2.4mm、篆刻は郷土史研究家・佐藤高俊氏（相馬中 27 回卒）、縦長楕円の格調高い朱印である。

【参考資料】

・『相中相高八十年』1978 年　　・『相中相高百年史』1998 年
・『紅の旗　創立百十周年記念誌』2009 年

〈地域資料チーム：丹野律子〉